

P.A.I.

Pappa TARAHUMARA

performing arts institute  
舞台芸術研究所

入所案内



## P.A.I.とは

「P.A.I.」は、「ステージに立つ者にとって大切なのは、技術、それ以上に、自身を支える頭脳、物を見る目、心を持つこと。それこそがひとりひとりの魅力、個性、将来への可能性を明らかにしていく」と考える演出家小池博史(パパ・タラフマラ芸術監督)によって1995年に設立されました。

当研究所は一グループの附属研究所でも、単なるダンサー、俳優を養成する学校でもありません。舞台表現者として着実な一歩を踏み出す為に必要な基礎力の養成を目的に、第一線で活躍する表現者自らが指導にあたる、日本で唯一の”舞台芸術研究所”です。

身体には様々な可能性が秘められています。身体の基礎力とビジョンを徹底してこの研究所で培って下さい。自分の中のまだ開花されていない可能性に出会いたい人、新たな表現方法を身に付けたい人、全ての人にすすめます。「存在とは、表現とは何か」を頭だけではなく身体全部で感じとっていきましょう。未来の社会をより豊かに彩ることのできる表現者としての一歩を、この研究所で踏み出してみてください。

もっともっとからだを開拓したい

将来プロとして舞台に立ちたい

舞台芸術家としての基本的な力を養いたい

新しい表現方法を身に付けたいと感じている

自分の中のまだ開花されていない可能性に出会いたい

芸術としてのパフォーマンス表現を高めたい

P.A.I.には演劇、舞踊ほかどんなジャンルにも必要とされる身体の基礎力とビジョンを徹底して培う1年のプログラムが組まれています。

## 身体のアーティストであるために

私の活動は学生の時より始まり、時を経て今のカンパニーをおこして、すでに20年以上になります。振り返ってみると、いわゆる演劇的な舞台からアートとしての活動、音楽のプロデュース、そしてダンス、オペラの舞台まで、表現の手法は大きな変遷を経てきました。

その中で実感することは、俳優やダンサーには、素晴らしい少数の人たちと、多くの視野の狭い人々がいるということです。その違いはなんなのでしょう。確かに俳優もダンサーも才能がなくては務まりません。しかし、その才能とは多義的であって一言では言い表せないものだと思えます。

舞台に立つということは、大変なことです。

立つ人自身の性格、考え方、あらゆることが舞台に立っただけで、すべて現われてしまいます。舞台は隠せないのです。テクニックを身に付けることは大切ですが、頭脳と心のないテクニックで人を感動させられるのはほんの一瞬です。舞台では、立つ人自身が常に試され続けるのです。自分自身に常に問い続けることが出来るのも才能です。見えない何かを追い求めようとする力を持っているのも才能です。他者を細かく観察できるのも才能です。そういったいろいろな才能と努力が表現を深く、強くしていくものなのです。

だから、私が出会いたいのは、このような才能を自ら発見し、その才能を強固にしていけるような表現者に他なりません。枠に縛られずに表現を掘り下げていくことのできる、考える力を持った身体のアーティストです。単なる技術だけでなく、思想の裏付けを持った表現者なのです。

そして、そういった人たちと共に、将来の日本の文化状況を大きく変えていきたいと思っています。ともに、未来の表現を探ってゆきましょう。

パパ・タラフマラ舞台芸術研究所(P.A.I.) 所長

小池博史



# P.A.I. 卒業生にインタビュー!

PAIで学んだこと、  
感じたこと



## 8期 卒業生 池野 拓哉さん

出身：千葉県 出身校：一橋大学 現 パパ・タラフマラ パフォーマー

大学生のときダンスに興味を持ち、先輩の勧めで2週間の小池博史ワークショップに参加。その後P.A.I.のスタジオ発表会を見て、自分もやってみようと思い、大学3-4年時にP.A.I.に通いました。卒業と同時にパパ・タラフマラに参加。

年間を通じて発表する機会があり、同期生からの刺激もあります。カリキュラムにより、ダンス、演技、声、音楽、即興などなど、自分だけでは選べないほどの様々な表現を学ぶことができます。の中で自分が本当に「何を深めていきたいのか」を自覚できる1年になるのではないかと思います。

自分がやりたいことをみつけるにはいい場所だと思うので、がんばってください。

在学時の一週間

月	火	水	木	金	土	日
自主練	自主練	自主練	自主練	自主練		↓ バイト
P.	P.		P.	P.	モダン	フリー タイム
バレエ			自主練	自主練		
大学 準備	大学	大学 準備	大学	大学	バイト	↓
	ジム			ジム		

### 当時の生活リズム

P.A.I.の授業前に1時間早く来てアップや自主練をマイペースにやっていた。そのかわり夜は22時頃には就床。夜は1時間程軽く走ったり、大学のグラウンドで即興でからだをほぐしたりしていた。土曜の夜から日曜日までは介護の夜勤のバイト等をしていた。大学の授業もあまり多くなかったため両立が可能でした。

## 15期 卒業生 石原 夏実さん

出身：東京都 出身校：早稲田大学 現 パパ・タラフマラ パフォーマー

フリーで劇団を転々としていた大学1年の冬、パパタラ作品を観て感激し入所。自分は付いていけないかと思いつつ、このまま同じような大学生活を過ごすのは嫌だ!と一念発起してオーディションを受けました。

基礎プログラムで毎週顔を合わせる先生方は、ひとりひとりの成長をしっかりと見つけてくれるので着実にステップアップできます。単発の特別授業はまったく新しい視点を吸収する、刺激的な体験。パパタラメンバーによる直接指導もパフォーマー各々の身体哲学のようなものを直に体感することができ、成長につながりました。

みんなで泊まり込みで稽古し作りあげた自身の作品を、小池先生が初めて褒めてくれた瞬間や、研究生同士でわいわい呑んで飲んだことなど、一瞬一瞬が思い出深い青春です。



在学時の一週間

月	火	水	木	金	土	日
9:00 P.	9:00 P.		9:00 P.	9:00 P.		
13:45 自主練	13:45 自主練	バイト	13:45 自主練	13:45 自主練	バイト	バイト or デート
16:00 大学	16:00 大学		16:00 大学	16:00 大学		
18:00 大学			飲み会 など			

### 当時の生活リズム

学校とダブルスクールだったので、フリーマーケットの運営スタッフなど、土日に単発で仕事をしていました。週4日、朝早くからの授業、私の場合は大学の試験と発表会の時期がかぶるなどさらに大変なときもありましたが、仲間の支えもあり頑張ることができました。無事に大学も卒業できました(笑)



## 12期 卒業生 飛田美紀さん

出身：東京都 出身校：日本大学芸術学部 現 デザイナー

デザイナーとして働いていた当時、新しいことに挑戦して自分の環境を変えたいと考えていた所、縁あって卒業公演を見ました。技術よりも、その気迫に心動かされ「自分も踊ってみたい!」と入所を決意しました。公演に向けての稽古も、本番も大変厳しいものでしたが、踊り終えた後の充実感と、舞台上立つということの奥深さに取り付かれ、二年も在籍してしまいました。

## 12期 卒業生 山崎 皓司さん

出身：静岡県 出身校：多摩美術大学 現 faifai パフォーマー

“パフォーマンス”というものの意味が分からず嫌いだったけど、パパタラパフォーマーの作品をみて初めて、意味がわからなくても素直におもしろいと感じ、P.A.I.に興味を湧いた。あとは、卒業公演で研究生が踊ってるのを見て、自分もあんな風に動けたら舞台上で出来る事が広がるなと思い入所を決めました。スタジオ発表会での作品創作を通して、作品に対して責任を持つてることが感じられて良かった。

いろんな体験を通し自分の趣味趣向も分かったので、P.A.I.を最後までやってよかったと思う。



## 15期 卒業生 井上 沙耶さん

出身：千葉県 出身校：埼玉県立芸術総合高校・舞台芸術科

可能性は無限だから、自分の能力をもっと信じると教えてくれた場所。お互いに“本気”の仲間たちと共に表現作品を創る体験が出来たことが人生のすごくビッグな財宝です。演劇だけの養成所にはない、表現に対するいろいろな角度からの幅の広いアプローチと、人としての魅力に溢れる講師との出会いが、2年間継続しようと思った大きな理由。



## 11期 卒業生 南波 冴さん

出身：兵庫県 入学校：和光大学 現 パパ・タラフマラ パフォーマー

私は、P.A.I.で初めて舞台上立つためのレッスンを受けました。自分に合うレッスンを集中して学び続けられるのが良かったです。苦手なことも続けることで身体から理解することもありました。遠くから通う人もいましたが、私は中野・杉並区辺りで下宿でした。卒業公演は一年やって来た事を大舞台上で試せる場。自分の限界を越えるつもり楽しみつつ取り組むと、その後の人生の見え方がぐっと変わる様な尊い経験になると思います。



## 15期 卒業生 関井博之さん

出身：北海道 出身校：早稲田大学 (在籍中)

大学1年生の時にパパタラフマラの舞台を見て、衝撃を受け、大学を休学して入所しました。何かを表現するために必要な、心と体のトレーニング方法を素晴らしい先生方のもとアットホームな雰囲気、じっくり学べます。一番印象に残っているのは夏合宿。大自然の中で仲間と過ごした1週間は、言葉では言い表せないほど。とても気持ちがいいです。中野駅からスタジオまでの道中も商店街があり、アイデアや衣装探しなどができる楽しい場所です。



P.A.I.は、身体まるごとを使ってどうやって表現するかということを、自分なりに探ってゆける場だと思います。踊りや歌や演技といった幅広い授業と、それらの基礎となる身体を鍛えるヨガや、コアコントロール(※現在、表現基礎・応用)などの授業もあるので充実したカリキュラムでした。早朝からパン製造のアルバイトをして、それから研究所に行っていました。

## 14期 卒業生 松本 聡史さん

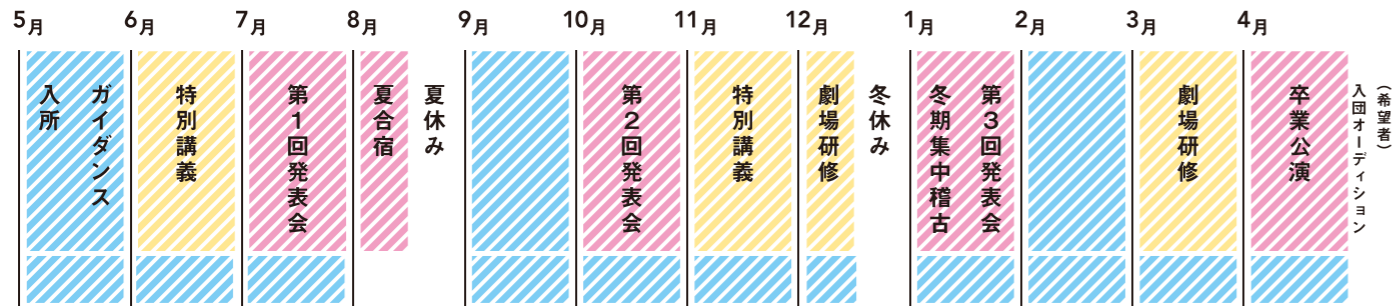
出身：京都府 出身校：京都精華大学

# スケジュール & 授業内容

## ◎ スケジュール (研究期間) ◎

- 5月から翌年4月までの1年間 ※1
- 夏期・冬期休暇をはさみ、3学期制。
- 週4日間 (月、火、木、金曜日)
- 1日2時限 (基本) 1時限 9:30~11:30 2時限 11:45~13:45 ※2※3

※1 カリキュラムは1年で組まれていますが、希望者は、2年以上の在籍可。  
 ※2 通常この時間でレッスンを行いますが、講義の内容上、場所、時間帯を変更する場合があります。  
 ※3 在籍人数により、午前部・午後部と2部制に分かれる可能性があります。



※年間スケジュールは年度により異なります。

## ◎ 授業内容 (プログラム) ◎

■ひとりひとりが自分の個性と出会い、自らを支える総合的な力が養えるよう、当研究所では次の3つのプログラムを柱とし、独自のカリキュラムが組まれています。

### Basicプログラム —基礎力・技術を養う—

総合表現 演技 ヴォイス  
 コンテンポラリーダンス ヨガ  
 クラシックバレエ フロアワーク  
 コンタクトインプロビゼーション 他

### Creativeプログラム —自ら創造する—

夏期合宿 冬期集中稽古  
 スタジオ発表会 卒業公演

### Outreachプログラム —広い視野を育む—

特別講義 (様々なアーティストや知識人との  
 トークセッション, 実技など) 劇場研修

■研究所代表小池博史は世界的に活躍するパフォーミングアーツカンパニー「パパ・タラマラ」の芸術監督でもあります。このグループの幅広いネットワークの中、アートの最前線で活動続ける表現者自らが指導します。創造の現場に積極的にふれてみてください。



# Basic プログラム —基礎力・技術を養う—



## ■ 総合表現

舞台とは何であるか、演じるとは何であるか、舞踊と何であるか、など、あらゆる舞台表現に関する基本的な考え方を再考し、舞台未経験者／経験者問わず新しい世界や感覚を開いてゆく。戯曲制作、演出、ダンス創作などを通し、多角的な視点を養う。

## ■ フロアワーク

床を使った表現の可能性を研究する。立った状態では使いにくい筋肉を効率よく使い、感覚の理解を深める。  
 1期:床を使うための基本的な体の使い方、捉え方、考え方、テクニックの習得方法を学ぶ。  
 2期:床を使った身体表現の、発展。  
 3期:実際に作品の中でどう使っていくかの検証、実践。

## ■ クラシックバレエ

基本の大切さ、体をケアしていく方法などを、バレエのレッスンを通して学ぶ。  
 1期:柔軟、まっすぐに立つこと(自分の軸を知ること)  
 2期:自分の身体構造を知りケアの知識を身に付ける。  
 3期:コンビネーション(テクニックの組み合わせ)、卒業公演が近くになったら、身体のケアの方法を学ぶ。

## ■ マーシャルアーツプラス

合気道や武道的身体の習得と研究により、身体表現の可能性を探る。空間認識や呼吸法などから、舞踊やボイスパフォーマンスへと発展させ、武道的身体を活かした表現へとアプローチ。表現するための感覚やセンスを磨く。

## ■ コンテンポラリーダンス

クラシックな伝統を解体し、新しい表現方法の追求を目指すコンテンポラリーダンス。レッスンでは、「シンプルな身体づくり」を続けながら、身体表現の可能性を広げ、自由でありながらもコントロールされた身体を創ることを目標とする。自分自身の身体の基本的な構造を理解し、より自由な肉体を獲得する方法を学ぶ。

## ■ ヴォイス&パフォーマンス

舞台上で使える呼吸法を習得し、ヴォイスを使ったパフォーマンスの方法を様々な角度から一人一人が探る授業。基本の呼吸法から、課題曲や即興音楽などを通して自身の声の魅力を探る。身体の一部として"表現に使える声"を手に入れる。

## ■ 演技

発声やリズムなどの様々なエクササイズ、エチュード、テキストワークを通して「もの言う術」を獲得する授業。レッスンでは、古典から現代劇まで様々な要素を取り扱う。ただ一言のセリフを叫ぶ、つぶやく、ささやく、など身体中の器官をいかに総動員し、全身で語れるかを学ぶ。

## ■ ヨガ

深呼吸や瞑想で五感を養い自分自身とじっくり向き合うことで、表現者として、人としての存在価値を高め、自己をコントロールする術を探る。今の自分を確認し、自分らしさを見つけ、エネルギーを癒し養い、様々なアーサナで土台となる自分をまとめてゆく。  
 ※アーサナ・・・ヨガで行う姿勢・ポーズのこと。

## ■ コンタクトインプロビゼーション

コンタクト・インプロヴィゼーションは、身体同士の交流・対話から生じる流れにまかせて動いてゆくコミュニケーション形式のダンス。繊細な動きからアクロパティックな動きまでを段階的に習得する。鑑賞や、ディスカッションからインプロ(即興)を自由に楽しむことを目標とする。

## ■ フェルデンクライス

フェルデンクライスとは人間の発達過程に基づいたボディワーク。シンプルな動きをゆっくりと気づきながらおこなうことで、脳を中心とした神経系にはたらきかけ、新しい動きのパターンを学んでゆく。本番に最大のパフォーマンスを発揮できるからだの感覚と機能を獲得する。

- コンポジション(創作) ■ アレキサンダーテクニーク ■ コーラス ■ 他



# Creativeプログラム - 自ら創造する -



## ■ スタジオ発表会

年3回、スタジオでの小発表会を行い、各人の中間期の成果を検証します。  
一回目は個人作品の創作、2回目は自身の作品の演出・振付・構成と他の研究生の作品への出演へと発展させて行き、3回目は卒業公演に向けてのワークインプログレス公演となります。  
小規模ではありますが一つの公演を成立させるために必要な要素の全てを体験することができます。個人的目標を立て臨むことで、自身にとってもより有意義な体験となります。



## ■ 夏期合宿 ■ 冬期集中稽古

夏期合宿とは、毎年夏の時期に行われるP.A.I.の恒例の人気プログラムです。都会を離れ、自然あふれる地で身体も心も解放しリフレッシュすることで、様々な可能性が開けてきます。冬期集中稽古では、集中して表現を探るとともに、卒業公演に向けての特別プログラムにいいよ、入ります。



## ■ 卒業公演

毎年、年度末に行なわれるP.A.I.で最も大きなイベントで、研究生全員の手で一つの公演を作り上げる集大成プロジェクトです。一般の劇場でプロのスタッフさんとともに作り上げます。本番に向けて集中して稽古に臨むことで、自身の実力と向き合い、能力を開花させることとなるでしょう。また、卒業公演が年間の大きな目標となることで、計画的に鍛錬を積むことができ、濃密な時間を過ごすことが出来ます。個人作品に於いては、プロのスタッフとともに仕上げてゆくことにより、各々の作品に対する価値観やアイデンティティを見極めることができ、プロとしての意識をより深く学ぶことができるでしょう。

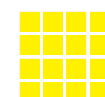
また、パパ・タラフマラ芸術監督／小池博史が研究生一人一人の個性を考えて書き下ろしたオリジナル作品に取り組むことで、新たな表現の境地を見出すこととなります。

これまでの公演会場：

かめありリリオホール、吉祥寺シアター、  
三鷹市芸術文化センター(星のホール)、北沢タウンホール など



# Outreachプログラム - 広い視野を育む -



## ■ 特別講義

「特別講義」では第一線で活躍する様々なジャンルのアーティストによる、講義、及び短期集中レッスンを通し、広い角度からパフォーマンス・アーツを検証、体験していきます。その講師陣は幅広く、様々なジャンルを横断的に学ぶことができます。  
講義の形式も、短期集中型の講義・ワークショップ生との交流・座学・継続的なレッスンなど様々です。  
(※講師紹介ページ、「これまでの特別講師」参照)



## ■ 劇場研修

「劇場研修」では、パパ・タラフマラの本公演に現場を支えるスタッフとして参加します。  
音響・照明・舞台・制作等、それぞれの持ち回りの業務に携わることで、プロの舞台公演を体感してください。舞台上上がるだけでは知るこの出来ない知識や経験を得ることができ、また、本番を迎えるプロのパフォーマーの様子を間近で感じることができる、またとない機会です。舞台は公演を成功させようという様々な力が集結することで初めて成功を収めます。舞台の基本的なルールはもちろん、公演を成功させるために自身がどれだけ能動的に動くことができるか挑戦してみてください。



## ■ 国際交流

パパ・タラフマラは結成10年目の1992年以降、ほぼ毎年海外で公演を行い、世界と共に活動を続けています。研究生のうち希望者はその公演に補助スタッフとして同行することが可能です。※1,2 各国のカンパニーとの交流や、海外公演の際のパフォーマー・スタッフの様子等を垣間みることができ、大きな経験値となるでしょう。また、海外からのアーティスト招聘作品を創作する機会も多いため、国内でも交流の機会は多くあります。

また、海外から講師を招いた特別授業も行います。ダンスだけではなく、音楽家やアーティスト等その顔ぶれは様々です。広い視野を育み、あらゆる文化を越えてゆける確かな価値を創造する術を学びます。

※1 実費(渡航費、宿泊費、食事代など)は自己負担となります。 ※2 状況によっては同行できない場合もございますので、ご了承下さい。



## 講師紹介



小池博史（研究所代表／演出家）：総合表現

一橋大学社会学部卒業後、82年「ババ・タラフマラ」を設立。以降、50作品以上の作・演出を手掛ける。演劇・舞踊・美術等のジャンルを超えたオリジナリティ溢れる作品群は、ベネチア・ビエンナーレ、ベルリン芸術祭などの海外主要フェスティバルや、ニューヨーク ブルックリン・アカデミー・オブ・ミュージック (BAM) 等、世界30数カ国で上演され、国際的に高い評価を確立している。Paris Grand Prix International Video Dance 優秀賞、Tokyo Journal Innovative Award 大賞、日本テレビ局長賞、他受賞。舞台芸術のみならず幅広いジャンルでアート・ディレクター、文筆家として活躍。公式サイト→http://kikh.com



白井 さち子／フロアワーク

7歳よりクラシックバレエを始める。82年より6年間橋バレエ学校に在籍。牧阿佐美に師事。日本女子体育短期大学舞踊コース卒業。在籍中、太田順造にバントマイムを師事。89年よりババ・タラフマラに参加。以降国内外の公演に出演。後身のパフォーマーのダンス指導にもあたる。ババ・タラフマラ作品「シンデレラ」においてシンデレラ役を好演する。



高橋 弘子／クラシックバレエ
1957年東京生まれ。82〜85年石井満隆ダンスワークショップで即興を学び、83年ソロ活動開始。かつて精神的危機から自分のからだを再確認することで立ち直ったという経験を原点とするソロダンスは、等身大のからだひとつで立つことから始まり、場との交感から生まれる即興として踊られる。1989年より滋賀県/湖南病院（精神科）で看護スタッフと共にダンスセラピーの試みを継続中。日本ダンスセラピー協会顧問 京都造形芸術大学客員教授 桜美林大学非常勤講師 日本即興協会会員



あらた真生／表現基礎・応用

4歳よりモダンバレエを始める。大学在学中に海外公演、ダンスフェスでの受賞などを経て卒業後P.AIへ入所。研究所在籍中にババ・タラフマラの新作キャストに抜擢され入団。以降、ほぼ全作品に参加。鍛え抜かれた柔軟な肉体と、特異な時間感覚を兼ね備えた独特な表現で世界各国を魅了する。ソロや異分野アーティストとの共同プロジェクトも展開中。また武術を取り入れた表現の指導、オステオパシーセラピストとして身体調整・ワークショップなども行う。ウィラメット大学特別講師（アメリカ）＊NYCBW（ニューヨークシティバレエワークアウト）公認インストラクター有資格。＊教員免許（保健体育・専修）



松島 誠／マーシャルアーツブラス

1984年より2006年までパフォーマーとしてババ・タラフマラに参加。舞台美術・オブジェデザインも担当。現在はソロパフォーマーとしての活動のみならず、CM振り付け、企業向けワークショップ、演出と幅を広げている。近年は特に国内、またアジア・ヨーロッパのアーティストとのコラボレーションに力を注いでいる。空間センスと、武道や舞踊から触発されたアジアの身体、オリジナルボイスをミックスした自由なパフォーマンスで枠にとられない表現を続けている。2004年より杉野服飾大学先端ファッション表現科講師 2008年韓国国立釜大（KNUA）客員教授



関口 満紀枝／ヴォイス&パフォーマンス

多摩美術大学演劇コースに在学中、ババ・タラフマラ付属研究所（現P.AI.）に入所。その後ババ・タラフマラに参加。抜群の歌唱力と豊かなパフォーマンスで魅せる実力派女優。2001年秋より一人芝居「月刊 関口満紀枝」をプロデュース。その他、歌手としてイベントやライブへの出演、TV出演やナレーションなど表現の幅を広げている。現在一児の母。マタニティケアアドバイザー資格、デューラ（産婦を精神的に補助する役割）コースの終了認定証を持つ。身体表現者たちの心身のケアのため、同種療法ホメオパシーを勉強中。現在自宅をサロンとした「micro cosmos」を展開中。



縫原 弘子／クラシックバレエ

福井県出身。3歳より坪田律子氏にバレエを学ぶ。幼少の頃、全国舞踊コンクールにおいて多数入賞。大阪芸術大学芸術学部舞台芸術学科卒業。在学中、法村牧緒氏・厚木凡人氏・横井茂氏に師事。上京し3年間スターダンサーズバレエ団の公演に参加。その後フリーでバレエ、ジャズダンス・モダンダンスなどの公演に参加。ババ・タラフマラ付属研究所（現P.AI.）在籍後、1995〜2001年ババ・タラフマラの活動に参加。現在はコンテンポラリーダンサーとしてソロで活動中。NUI DANCE CLASS主宰。リスク・ダンス・ワークショップバレエ講師 ヨークカルチャーバレエ講師 他



佐藤 昌枝／コンテンポラリーダンス

おてんばゆえ5歳よりダンスを始める。87年日本女子体育短期大学舞踊専攻卒業。故太田順造、渡辺朱美・元に師事。92年武元賀寿子danceVenueに参加、94年より作品を発表しはじめる。オペラ・オペレッタ、海外ツアー、文化庁公演など舞踊作家作品に数多く出演。また自身の活動も野外や画廊、チャリティー公演な幅広く活動中。現在、tanzgreifen主宰。チャコット、よみうりカルチャー講師。年齢・経験を問わず、より多くの人に身体表現の楽しさを実感してもらうため、自らの経験を踏まえ様々な角度からの指導を行っている。



高橋 弘子／コンタクト・インプロヴィゼーション

日本大健康学科卒業（ダンス部）。竹屋啓子コンテンポラリーダンスカンパニー（現ダンス01）に在籍中、作品創り・海外公演・オペラ等に出演、振付。1997年渡仏。コンテンポラリーダンス研修中にコンタクトインプロヴィゼーション（CI）に出会い学ぶ。2000年退団後、自主活動をスタート。現在、神奈川大学・創英短期大学他、非常勤講師を務める。2003年グループSPIRALを設立。CIの普及を目指し（07年からフェスティバルを開催）活動中。ピラティスFTPインストラクター有資格 合気道2段 現代舞踊・ダンスセラピー協会員



小田 雅子／ヨガ

HIP-HOP/JAZZ系ダンスインストラクター・振付師・Dancer 舞台、PV、TVCF、ミュージシャンライブ等のダンサー、振り付け多数。ハタヨガを試みながら様々な体操法、矯正法を整体師、武道家から学ぶと同時に、精神世界の観点からも人を見つめハンドヒーリング、レイキと出会いマスターとなる。現在、「oda-zone」として、-自分らしく生きる-をテーマに、肉体、精神世界双方からのアプローチによるオリジナルクラスを展開。



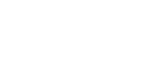
今井 朋彦／演技

87年文学座附属研究所に入所。92年に座員となり現在に至る。これまでに文学座をはじめ、新国立劇場、t.p.t. PARCO劇場、ホリプロなどさまざまな舞台に出演。2000年には文学座アトリエにて松田正隆作品の演出も手掛ける。また2001年から舞踊家木佐貫邦子氏に師事。身体表現としての演技についての探求も行っている。主な舞台に「コペンハーゲン」「エレファントマン」「炎の人」「ヘンリー六世」「ミュージカル・蜘蛛女のキス」などがある。



岩下 徹／即興ダンス

舞踊家/即興ダンス、山海塾舞踏手。ソロ活動では（交感(コミュニケーション)としての即興ダンス)の可能性を追求。1957年東京生まれ。82〜85年石井満隆ダンスワークショップで即興を学び、83年ソロ活動開始。かつて精神的危機から自分のからだを再確認することで立ち直ったという経験を原点とするソロダンスは、等身大のからだひとつで立つことから始まり、場との交感から生まれる即興として踊られる。1989年より滋賀県/湖南病院（精神科）で看護スタッフと共にダンスセラピーの試みを継続中。日本ダンスセラピー協会顧問 京都造形芸術大学客員教授 桜美林大学非常勤講師 日本即興協会会員



矢沼礼子／コンポジション（創作）

東京出身。高校卒業後、日本ヘルス&スポーツ学院ダンス留学科2年制コース卒業。バレエ、コンテンポラリーダンスを望月辰夫（現 新国立劇場プロデューサー）に学び、アメリカンモダンダンス、創作法をN.Yジュリアード音楽院ダンス科教師の平林和子より学ぶ。ダンサー、振付家として国内外での出演、コンクール、自主公演などにて研鑽を積む。近年は、ヨガインストラクターとしても指導を行っている。

## これまでの特別講師

朝比奈尚行	音楽家 「時々自動」主宰	トラフ建築設計事務所	建築家 空間デザイナー
-------	--------------	------------	-------------

伊藤キム	ダンサー 「伊藤キム＋輝く未来」主宰	永谷亜紀	舞踊家 振付家「danscapes」主宰
------	--------------------	------	----------------------

インゴ・ギユンター	メディア・アーティスト	畑龍徳	筑波大学大学院講師 建築家
-----------	-------------	-----	---------------

越智義朗	パーカッションист コンポーザー	日玉浩史	コレオグラファー 元ローザスダンサー
------	-------------------	------	--------------------

折原美樹	ダンサー マーサ・グラハム舞踊団ソリスト	増田圭子	能楽師
------	----------------------	------	-----

片山正夫	セゾン文化財団事務局長	松井憲太郎	プロデューサー・元世田谷パブリックシアタープログラムディレクター
------	-------------	-------	----------------------------------

河村錠一郎	元 一橋大学教授 比較芸術評論家	水嶋一江	ストリングラフィ奏者
-------	------------------	------	------------

クリスティヌ・コウノ	ピナ・バウシュ・ヴヅパータル舞踊団 ローザス等 ダンストレーナー	村井健	舞台評論家
------------	----------------------------------	-----	-------

小林十市	俳優 元ベジャールバレエ団 ソリスト	森脇裕之	ライトオブジェ・アーティスト
------	--------------------	------	----------------

近藤良平	ダンサー 「コンドルズ」主宰	山田海蜂	パフォーマー・元新体操選手
------	----------------	------	---------------

四家恵	バレエダンサー K/バレエカンパニーダンスミストレス	ヤン・ツイ・クック	中国古典舞踊ダンサー 講師
-----	----------------------------	-----------	---------------

デミトリス・クラニオティス	詩人 元ピナ・バウシュ・ヴヅパータル舞踊団	八重樫みどり	マイム(ミーム)講師
---------------	-----------------------	--------	------------

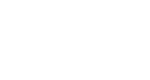
富田泰行	ライティング・デザイナー (トミタライティングオフィス)	和栗由紀夫	舞踏家 「好善社」主宰
------	------------------------------	-------	-------------

### 他



木村 真紀／コーラス・歌唱指導

シンガーソングライター、東京音楽大学作曲科卒業。在学中にローカルラジオCMソングを歌い、以来、CMソング、コミックスイメーリアルバム、ゲームミュージックなどに作詞・作曲曲ヴォーカルで参加。2000年、日本コロムビアよりソロアルバム「涙」をリリース。05年4月からNHK「おかあさんといっしょ」のぼわわぶ体操の歌を中西圭三氏とともに歌い、好評を得る。2006年に新作CD「愛ってなあに？」と「小さな贈りもの」を制作。近年では幼稚園、自治体、養護学校等主催のコンサート活動も精力的に行う。



望月純吉 文学座所属 演出家

内田純子 俳優「ユマニテ」所属 京都市芸術文化特別奨励者

岸本真澄 ダンサー アレキサンダーテクニック講師

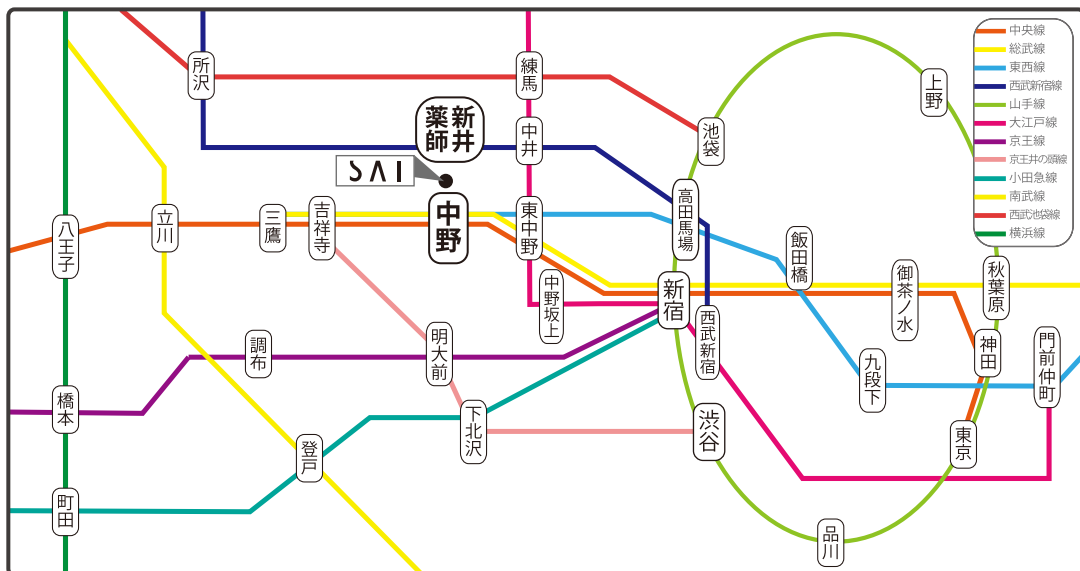
都丸永子 ダンサー フェルデンクライス講師

<sup>[1]</sup> photo by takeshi horinouchi (P1.6段目、P2-P3、P8.上段上下・中段右、P12.3・5段目)  hiroshi koike (P1.1・2・4・5段目、P2-P3、P4.上段、P5.右2段目、P8.下段右・中・左、P9.上段右・下段上、P12.1・2・4段目)

<sup>[2]</sup> aya sunahara (小池博史プロフィール写真)  ono mizue (松島誠プロフィール写真)  takashi yamanaka (岩下徹プロフィール写真)  kazuya kato (山崎皓司プロフィール写真)



## スタジオ所在地 / アクセス



最寄り駅：

● JR 中央線、総武線 東京メトロ 東西線 中野駅

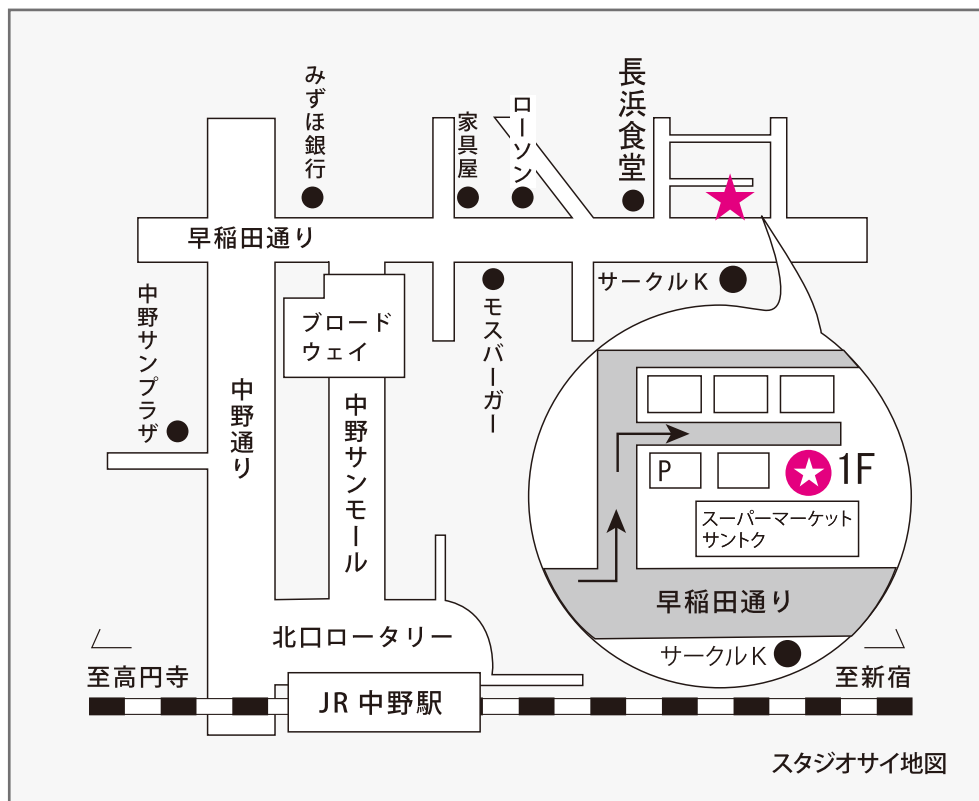
新宿駅より	約 4 分
渋谷駅より	約 15 分
池袋駅より	約 13 分

東京駅より	約 18 分
吉祥寺駅より	約 10 分
八王子駅より	約 36 分

●西武新宿線 新井薬師前駅

西武新宿駅より	約 4 分
池袋駅より	約 16 分

練馬駅より	約 18 分
所沢駅より	約 33 分



●JR/東京メトロ 中野駅より徒歩 13 分 西武新宿線 新井薬師前駅より徒歩 13 分